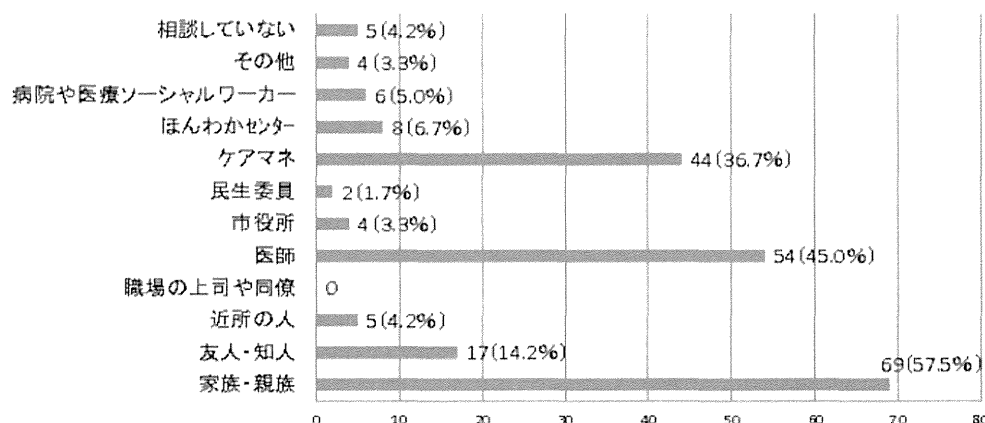


#### ④家族の負担感の現状 1)最初に相談したところ

○要介護者の物忘れや行動面などの「最初の変化」に気づき、最初に相談したところ（複数回答）として、「家族・親族」が69人（57.5%）で最も多く、「医師」54人（45.0%）、「ケアマネジャー」44人（36.7%）、「知人・友人」17人（14.2%）の順で回答が多くあった。

最初に相談したところ（該当するものすべて、n=120）



「認知症の方の家族介護の実態に関するアンケート調査（ご家族向け）」より作成

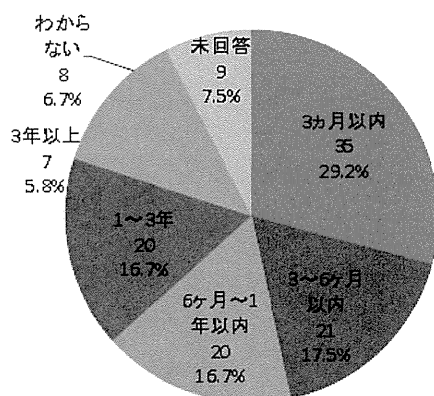
14

#### ④家族の負担感の現状 2)相談するまでの期間と思い

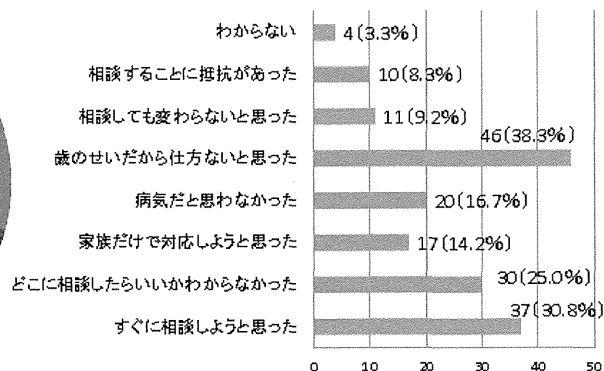
○相談するまでの期間をみると、「3ヶ月以内」35人（29.2%）、「3～6ヶ月以内」21人（17.5%）、「6ヶ月～1年以内」「1～3年」がそれぞれ20人（16.7%）の順であった。

○相談するまでに感じたこと、考えたことをみると、「歳のせいだから仕方ない」が46人（38.3%）と最も多く、次いで「すぐに相談しようと思った」37人（30.8%）、「どこに相談したらいいかわからなかった」30人（25.0%）の順であった。

相談するまでの期間（n=120）



相談するまでに感じたこと、考えたこと（n=120）



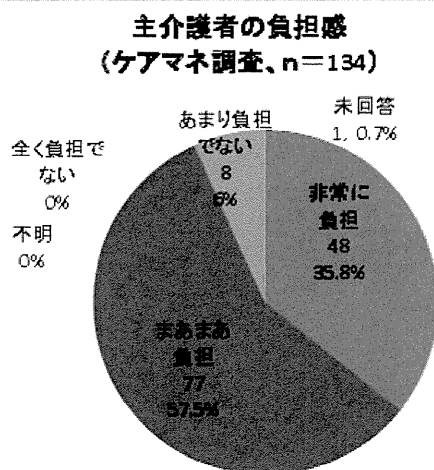
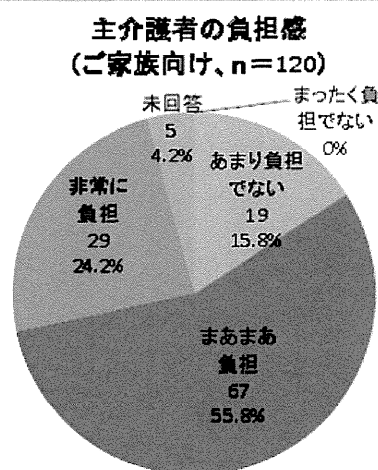
「認知症の方の家族介護の実態に関するアンケート調査（ご家族向け）」より作成

15

#### ④家族の負担感の現状 3)主介護者の負担感

○主介護者の負担感について、（ご家族向け）調査をみると、「まあまあ負担」67人（55.8%）、「非常に負担」29人（24.2%）の順で、負担と感じている割合を合計すると（80%）であった。

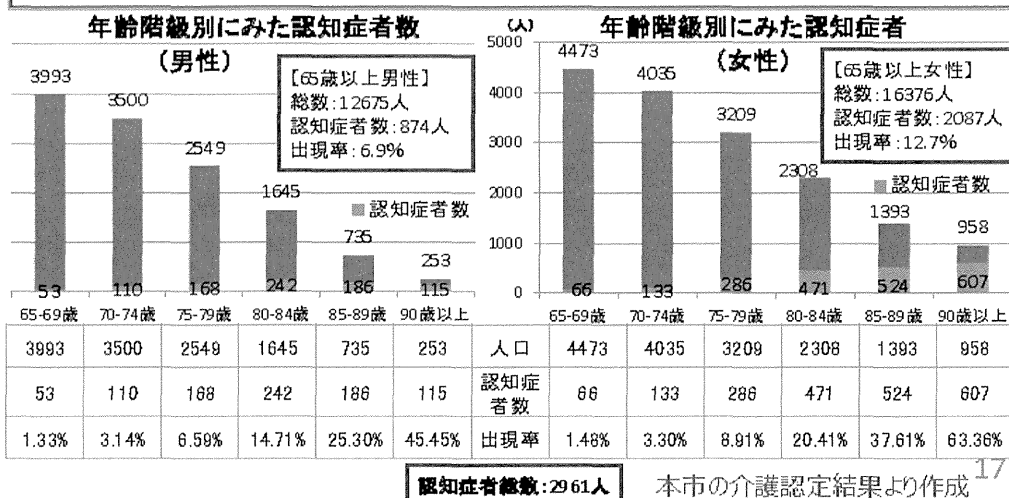
○（ケアマネ向け）調査をみると「まあまあ負担」77人（57.5%）、「非常に負担」48人（35.8%）の順で、負担と感じている割合を合計すると（93.3%）であった。



「認知症の方の家族介護の実態に関するアンケート調査（ご家族向け）（ケアマネ向け）」より作成 16

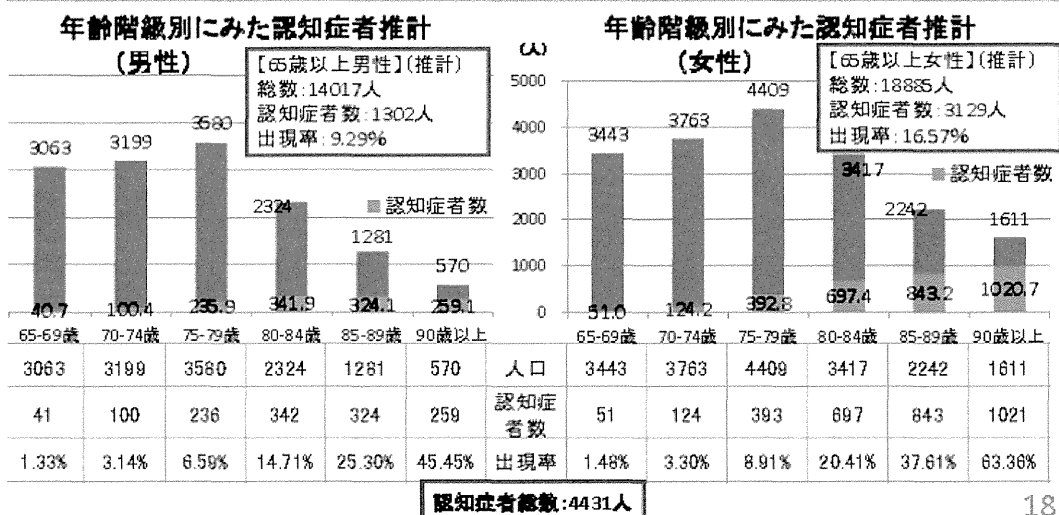
### ⑤ 認知症者の出現率 1) 性別年齢階級別にみた認知症者の出現率

- 平成25年9月時点の65歳以上人口総数29051人（男性12675人、女性16376人）のうち、認知症者総数2961人（男性874人、女性2087人）で市全体の認知症者の出現率は10.2%となった。
- 平成25年9月時点での認知症の出現率を性別で見ると、「男性」6.9%、「女性」12.7%と女性が高くなっている。
- 年齢階級別にみると、男女ともに80歳から出現率が急上昇している。



### ⑤ 認知症者の出現率 2) 将来(2025年)の認知症者の推計

- 2025年の65歳以上人口推計（男性14017人、女性18885人）に、平成25年9月時点の認知症者の出現率を乗じたところ、認知症者数推計は「男性」1302人（出現率9.29%）、「女性」3129人（出現率16.57%）となった。
- 認知症者の出現率が高い80歳以上人口が増加することで、2025年には市全体の認知症者の推計が4431人となり、平成25年9月時点から約1.5倍の増加が予測される。



富田林市高齢者保健福祉 計画等推進委員会(第1回)	資料 4-3
平成26年6月20日	

## (5) 個別テーマごとにみた現状と課題

### 3、二次予防と要支援者の生活支援サービスに対するニーズ

<p>「二次予防」 要介護状態になるリスクが高い人に対して要介護状態等となることを予防する</p> <p>「二次予防対象者」 65歳以上の人のうち要介護者又は要支援者以外の人で、要介護状態等となるおそれの高い状態にあるとみとめられるもの</p>
--

1

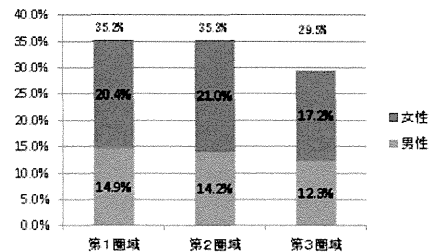
### ②二次予防対象者の現状 1) 25年度 はつらつ度チェック票より

○市域全体で二次予防対象者数は有効回答数の内32.9%にあたる4,695名。  
性別・圏域別にみると、すべての圏域で女性が男性を上回っている。  
○二次予防対象者の出現率は、第3圏域が最も低い

二次予防対象者の数

	男性	女性	計
第1圏域	613	841	1,454
第2圏域	605	894	1,500
第3圏域	727	1,014	1,741
計	1,945	2,749	4,695

二次予防対象者の出現率



(有効回答数内訳 第1圏域=4,126人 第2圏域=4,255人 第3圏域=5,896人)

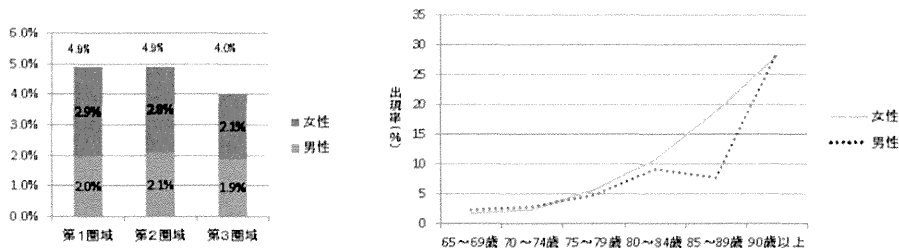
「平成25年度二次予防事業対象者把握事業」より 対象者23,180名 有効回答14,277名

3

## ②二次予防対象者の現状 2)「閉じこもりリスク」について

- 「閉じこもりリスク」があるのは640人（13.6%）。性別圏域別にみると女性の割合が男性より高く、第3圏域の出現割合が低い。
- ※「閉じこもりリスク」は、二次予防対象者の中で、「外出頻度が週1回未満」の項目に該当する人
- ※リスクの種類：虚弱（生活機能低下）、運動機能低下、低栄養、口腔機能低下、閉じこもり、物忘れ、うつ傾向

閉じこもりの状況（地区ごと、性別ごと） 性別・年齢階層別 閉じこもりリスクの出現率



（対象者 第1圏域＝4,126人 第2圏域＝4,255人 第3圏域＝5,896人）

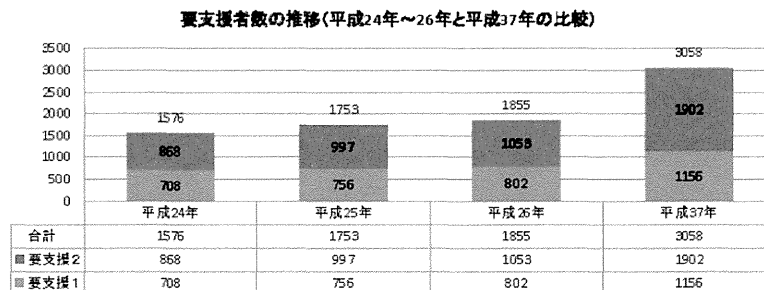
「平成25年度二次予防事業対象者把握事業」より 対象者23,180名 有効回答14,277名

4

## ③要支援者のサービス利用 1)人数と将来推計

平成24年から26年にかけて、要支援者数は緩やかに増加しています。厚労省から提供されているワークシートにより推計すると、平成37年には要支援者は3,058人となり、平成26年と比較すると要支援1で約1.44倍、要支援2で約1.81倍、全体で約1.65倍に増加すると見込まれています。

要支援者の推移



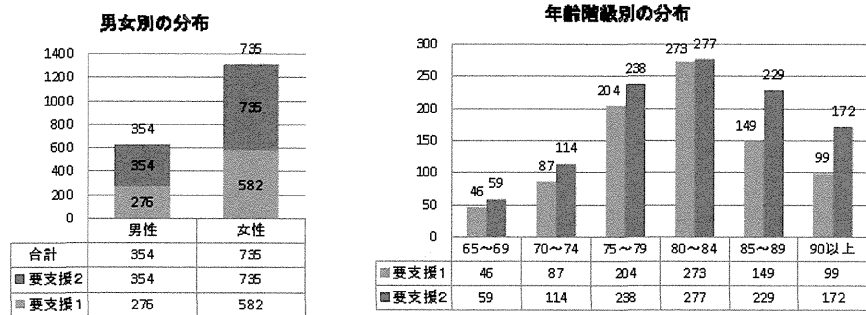
「介護保険事業計画用ワークシート」より

5

### ③要支援者のサービス利用 2) 性別、年齢階級別

まず、男女別の分布をみると女性が男性の約2倍となっており、要支援1・2のいずれの区分においても女性が多いことが分かります。  
次に、年齢階級別分布で男女ともに80～84才が最も多く、85才以上では男性が大きく減少するのに対して、女性の減少はゆるやかで、男女で乖離する傾向が見られます。

要支援者の特性



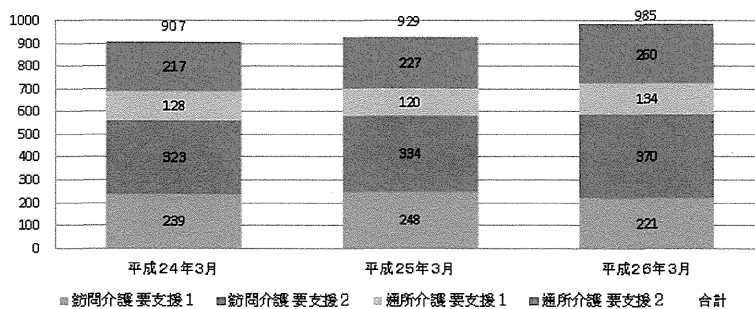
「介護保険事業計画用ワークシート」より

6

### ③要支援者のサービス利用 3) サービス利用の実績

○平成24年から平成26年の要支援者の訪問介護、通所介護の利用者数合計の伸び率は、約8.6%となっております。

要支援1・2の通所、訪問サービスの利用状況①



「介護保険事業状況報告、平成24年3月分、平成25年3月分、平成26年度3月分」より

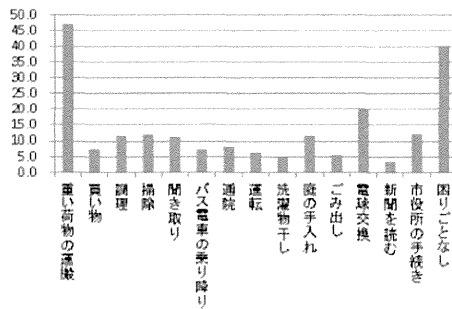
7

## ④日常生活の困りごとと参加意欲 1) 日常生活の困りごと

○65歳以上で要介護認定のない方の困りごとの集計  
 ○困りごとなし 40.3%  
 ○困りごとについては上位から、重い荷物の運搬（46.9%）、電球交換（20.0%）  
 市役所の手続（12.2%）

日常生活の困りごと（複数回答可）

有効回答数 13,491人



重い荷物の運搬	46.9
買い物	7.2
調理	11.6
掃除	12.0
聞き取り	11.2
バス電車の乗り降り	7.1
通院	8.1
運転	6.2
洗濯物干し	4.9
庭の手入れ	11.6
ごみ出し	5.3
電球交換	20.0
新聞を読む	3.4
市役所の手続き	12.2
困りごとなし	40.3

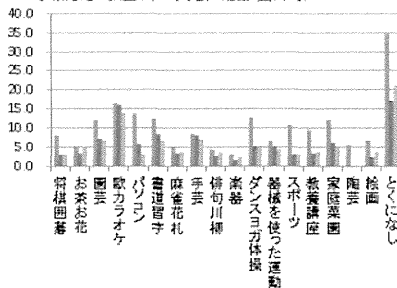
平成26年2月実施「高齢者の住まいと生活支援のあり方に関するアンケート調査」より

9

## ④日常生活の困りごとと参加意欲 2) 地域への参加意欲

○要介護認定なし、要支援1、要支援2の方、それぞれへの質問。  
 ○それぞれの対象者で「とくになし」が一番多い。

参加したい教室やプログラム（複数回答可）



	要介護認定なし	要支援1	要支援2
1位	歌・カラオケ	歌・カラオケ	歌・カラオケ
2位	パソコン	書道習字	手芸
3位	ダンスヨガ体操	手芸	書道習字園芸

有効回答数

要介護認定なし：13,310人、 要支援1：275人、 要支援2：301人

	琴根町	お茶の花	西条	歌・カラオケ	パソコン	書道習字	お茶の花	手芸	律動川柳	茶話	ダンスヨガ体操	お茶の花	スポーツ	音楽講座	夜読会	園芸	絵画	とくになし
要介護認定なし	1,025	695	1,592	2,191	1,827	1,645	641	1,119	570	400	1,652	376	1,400	1,249	1,610	732	894	46,05
要支援1	7.9	5.2	12.0	16.5	13.7	12.4	4.8	8.4	4.3	3.0	12.6	6.6	10.7	9.4	12.1	5.5	6.7	34.6
要支援2	8.9	3.3	6.9	16.0	5.8	8.4	3.3	8.0	2.5	1.5	4.7	5.1	2.9	3.3	6.2	0.0	2.2	17.1
	9.9	15.0	20.0	42.0	9.0	20.0	11.0	21.0	11.0	7.0	14.0	13.0	9.0	11.0	14.0	0.0	11.0	64.0
	3.0	5.0	6.6	14.0	3.0	6.6	3.7	7.0	3.7	2.3	4.7	4.3	3.0	3.7	4.7	0.0	3.7	21.3

要介護認定なしについては、平成26年2月実施「高齢者の住まいと生活支援のあり方に関するアンケート調査」より  
 要支援1、2については、平成26年4月実施「高齢者の生活と住まいに関するアンケート調査」より

10

(資料 4-4) 住宅に対するニーズの現状

富田林市高齢者保健福祉 計画等推進委員会(第1回)	資料 4-4
平成26年6月20日	

## (5) 個別テーマごとにみた現状と課題

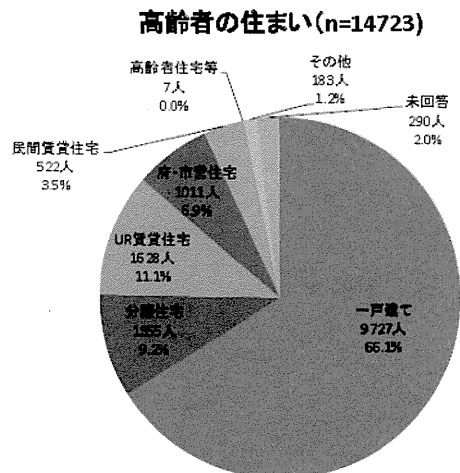
### 4. 住宅に対するニーズの現状

- 高齢者の住まいと生活支援のあり方に関するアンケート調査  
 対 象：65歳以上の要介護認定のない人 (回答数：14,684人)  
 実施月：平成26年2月
- 高齢者の生活と住まいに関するアンケート調査  
 対 象：65歳以上の在宅で要介護認定のある人※約4900人から1,000人  
 抽出 (回答数：669人)  
 実施月：平成26年4月

1

#### ① 高齢者の住宅と世帯1)住宅の種類別にみた人数と割合

○ 高齢者の住まいとして、一戸建てが66.1%と一番多く、ついでUR賃貸住宅が11.1%と多い。



「高齢者の住まいと生活支援のあり方に関するアンケート調査」より作成

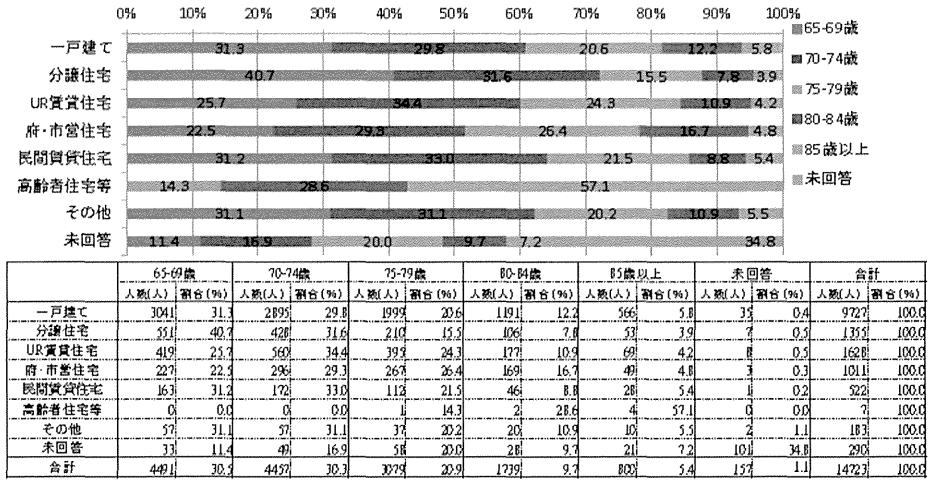
2



## ①高齢者の住宅と世帯 2)住宅の種類別に見た住民の年齢構成

○75歳以上の後期高齢者の割合が高いのは、府・市営住宅や高齢者住宅等にお住まいの方です。

住宅ごとの年齢階級別人数と割合(n=14723)



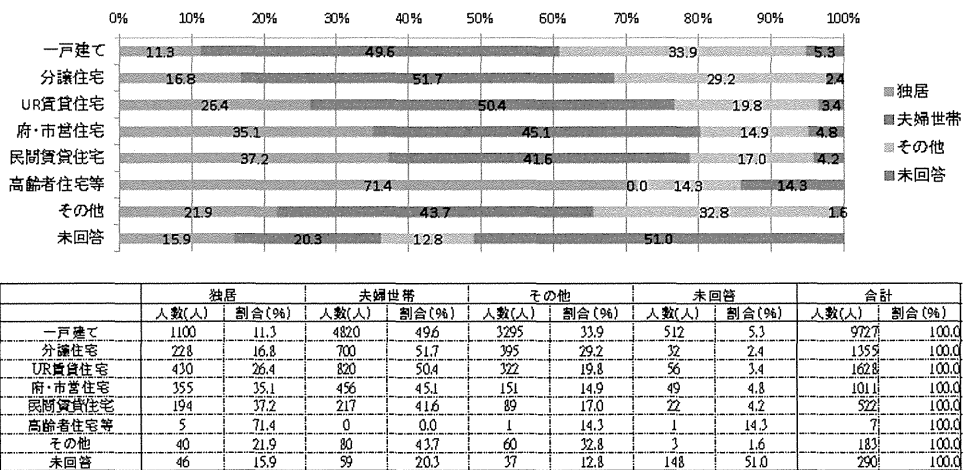
「高齢者の住まいと生活支援のあり方に関するアンケート調査」より作成

3

## ①高齢者の住宅と世帯 4)住宅の種類別に見た独居の割合

○独居の割合は一戸建て住宅や分譲住宅よりも、賃貸住宅の方が高くなっている。

住宅種類と世帯構成の割合



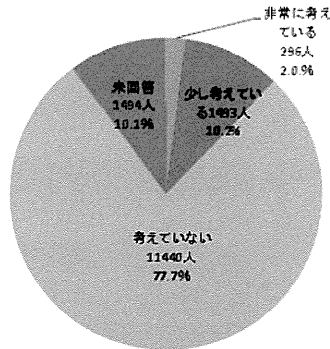
「高齢者の住まいと生活支援のあり方に関するアンケート調査」より作成

5

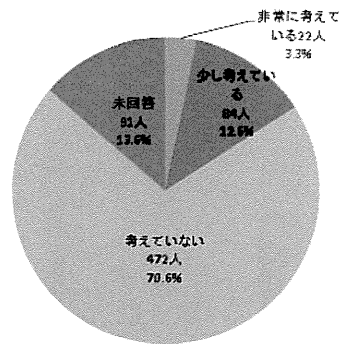
## ②すまいの住み替えについて 1)住み替えの意向(全体)

○「非常に考えている」と「少し考えている」の合計は「認定無し」が1789人（12.2%）「認定あり」が106人（15.9%）であった。  
 ○若干ではあるが「認定あり」の方のほうが住み替え意向が高い。

住み替えの意向  
(認定無し n=14723)



住み替えの意向  
(認定有り n=669)



「高齢者の生活と住まいに関するアンケート調査」

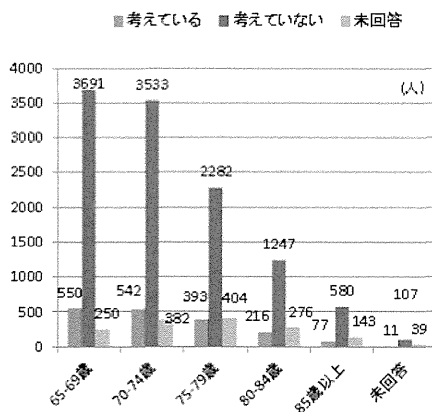
「高齢者の住まいと生活支援のあり方に関するアンケート調査」より作成

6

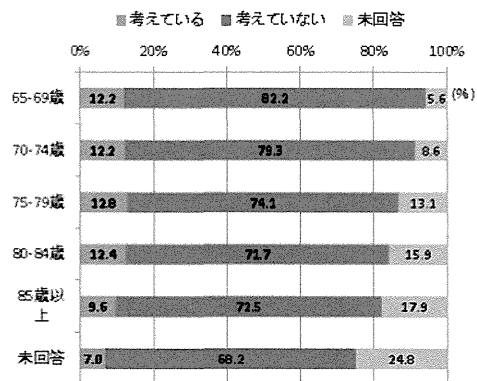
## ②すまいの住み替えについて 3)住み替えの意向(年齢構成別)

○どの年齢階級でも約1割の方が住み替えを考えている。

年齢化級別の住み替えの意向  
(n=14723)



年齢階級別住み替えの意向の割合



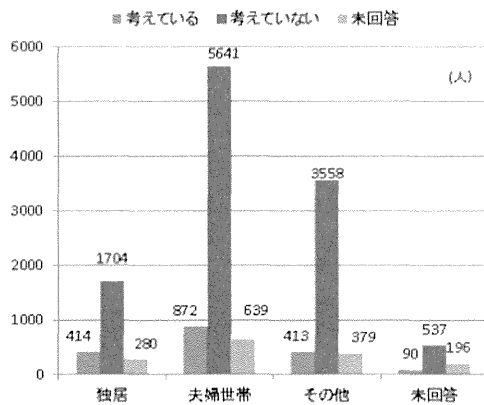
「高齢者の住まいと生活支援のあり方に関するアンケート調査」より作成

8

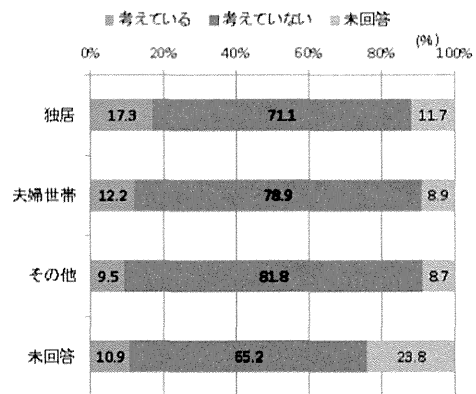
## ②すまいの住み替えについて 4)住み替えの意向(世帯構成別)

○住み替えを考えている方の割合が最も高い世帯構成は「独居」である。

住替え意向と世帯構成(n=14723)



住み替え意向と世帯構成の割合



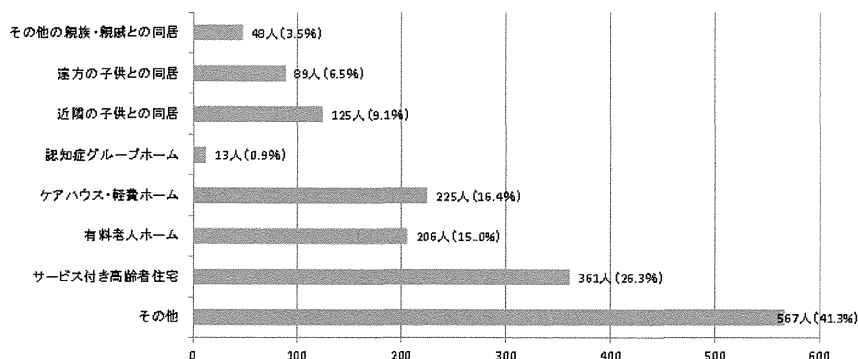
「高齢者の住まいと生活支援のあり方に関するアンケート調査」より作成

9

## ②すまいの住み替えについて 5)住み替え先(認定なし)

○介護認定のない人の住み替え先は、その他を除いて、サービス付き高齢者向け住宅が最も多い。

住み替え先(複数回答可 n=1372)



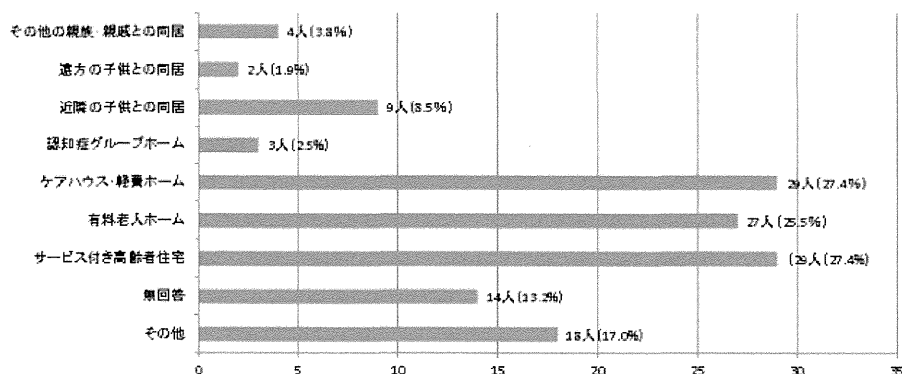
「高齢者の住まいと生活支援のあり方に関するアンケート調査」より作成

10

## ②すまいの住み替えについて 6)住み替え先(認定あり)

○認定のある人の住み替え先は、ケアハウス・軽費老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅、有料老人ホームが多い。

住み替え先(複数回答可 n=106)

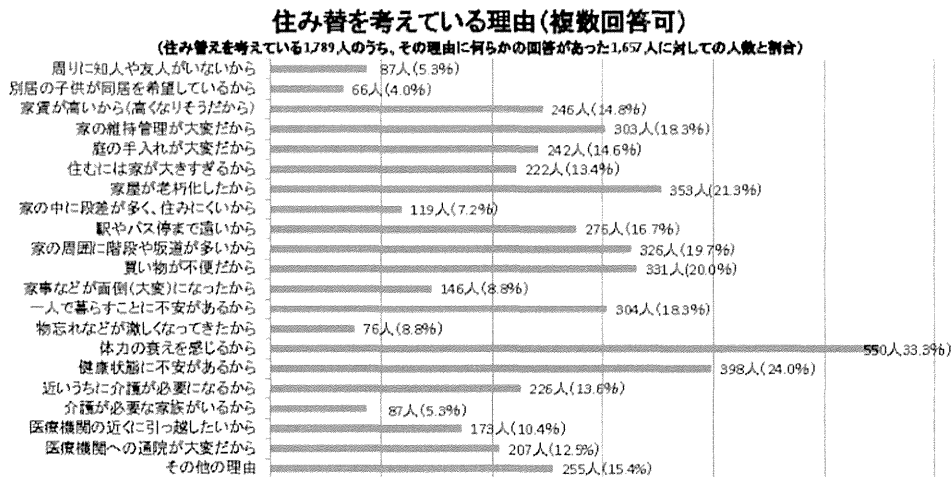


「高齢者の生活と住まいに関するアンケート調査」より作成

11

## ②すまいの住み替えについて 7)住み替えの理由(認定なし)

○住み替えを考えている理由として認定なしの人は、「体力の衰えを感じるから」「健康状態に不安があるから」のように身体的な理由を選択した人が多い。

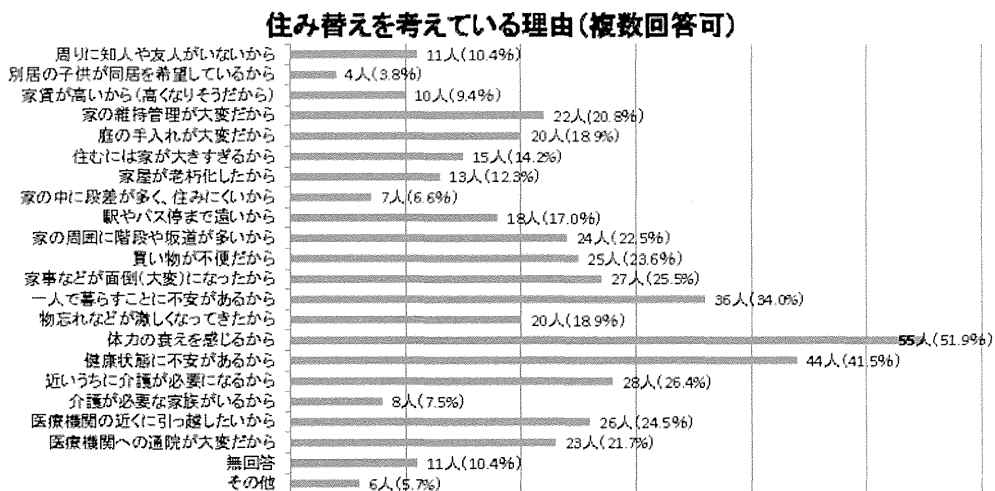


「高齢者の住まいと生活支援のあり方に関するアンケート調査」より作成

12

## ②すまいの住み替えについて 8)住み替えの理由(認定あり)

○住み替えを考えている理由として「認定あり」の人は「認定なし」の人と同じく、「体力の衰えを感じるから」「健康状態に不安があるから」のように身体的な理由を選択した人が多い。



「高齢者の生活と住まいに関するアンケート調査」より作成

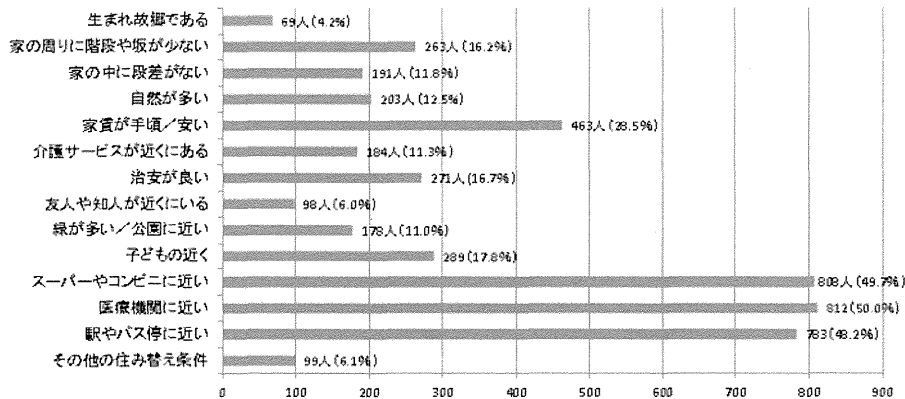
13

## ②すまいの住み替えについて 9)住み替えの条件(認定なし)

○住み替えを考えている人のうち、「認定なし」の人の住み替えの条件は、約半数の人が「医療機関に近い」「スーパーやコンビニに近い」「駅やバス停に近い」を選択している。

### 住み替えを考えている条件(複数回答可)

(住み替えを考えている1,789人のうち、その理由に何らかの回答があった1,625人に対しての人数と割合)



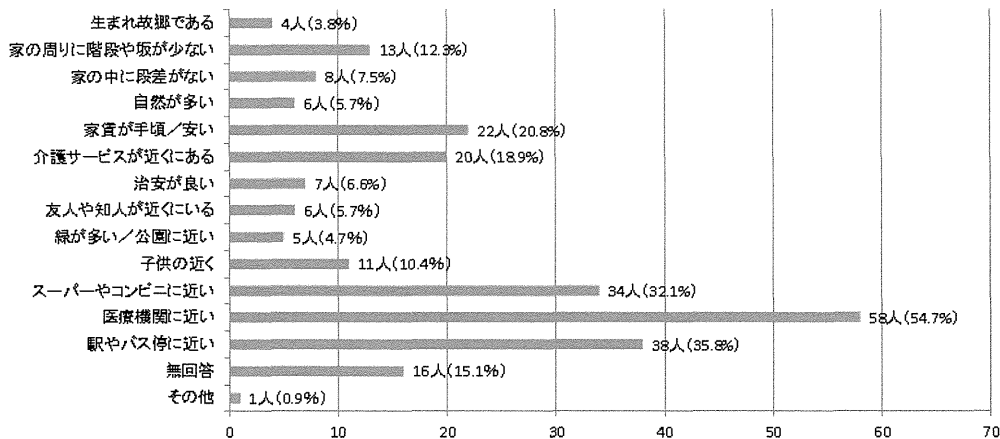
「高齢者の住まいと生活支援のあり方に関するアンケート調査」より作成

14

## ②すまいの住み替えについて 10)住み替えの条件(認定あり)

○住み替えを考えている人のうち、「認定あり」の人の住み替えの条件は「医療機関に近い」を選択した人の割合が他の理由を選択された人よりも高い。

### 住み替えを考えている条件(複数回答可)

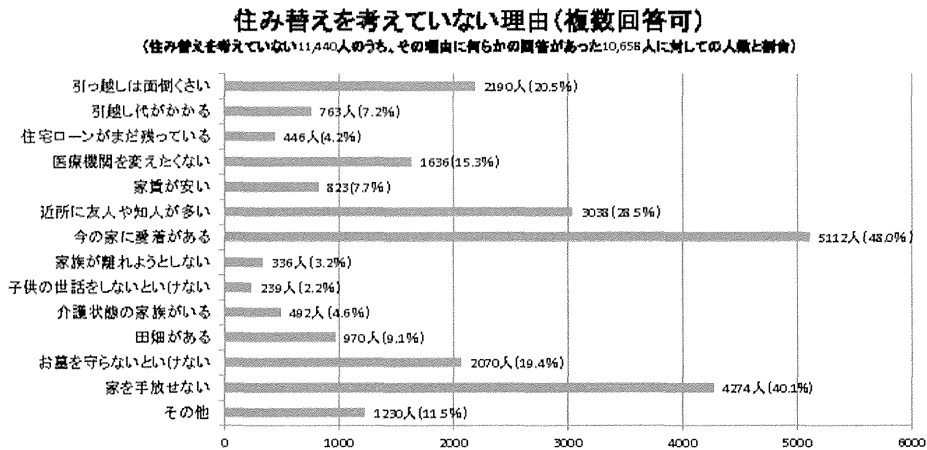


「高齢者の住まいと生活支援のあり方に関するアンケート調査」より作成

15

②すまいの住み替えについて 11)住み替えを考えていない理由(認定なし)

- 住み替えを考えていない人に、その理由を聞くと、「認定なし」の人では「家に愛着がある」の理由を選択された方が一番多く、次いで「家を手放せない」を選択された方が多い。

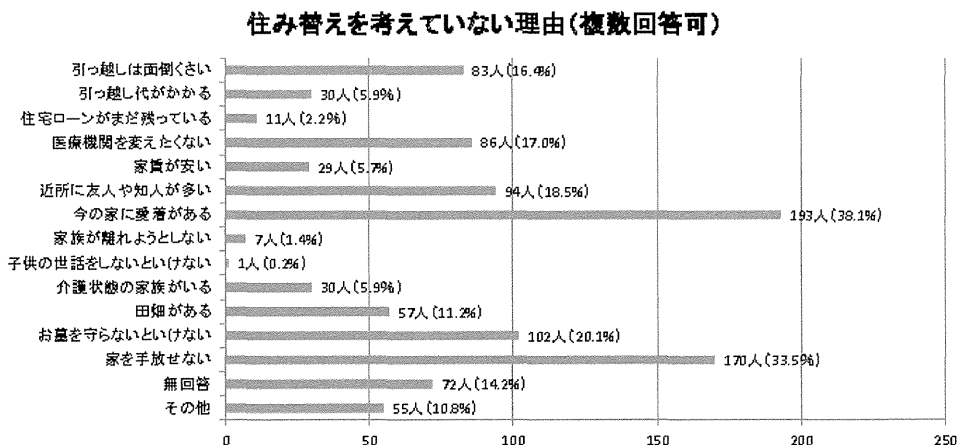


「高齢者の住まいと生活支援のあり方に関するアンケート調査」より作成

16

②すまいの住み替えについて 12)住み替えを考えていない理由(認定あり)

- 住み替えを考えていない人に、その理由を聞くと、「認定あり」の人では「認定なし」の人と同じように「家に愛着がある」の理由を選択された方が一番多く、次いで「家を手放せない」を選択された方が多い。



「高齢者の生活と住まいに関するアンケート調査」より作成

17

1) 第2回目(2014年6月12日)

次頁の議事次第に従って、委員会を遂行した。

(1) 市が準備した資料の内容

事前打合せを経て、最終的に市が準備した資料は、以下の通り。

資料1：高齢者の現状と今後

資料2-1：個別テーマごとにみた現状と課題

資料2-2：認知症

資料2-3：介護予防と生活支援

資料2-4：住まい

資料3：介護給付費と基盤整備の現状と今後



## 第2回 富田林市高齢者保健福祉計画等推進委員会

平成26年8月28日(木)

13:30～15:40

富田林市消防署4階視聴覚室

1. 高齢者の現状と今後・・・・・・・・資料1
2. 個別テーマごとにみた現状と課題・・・・・・・・資料2
  - ①在宅医療と介護の連携
  - ②認知症
  - ③介護予防と生活支援
    - 1) 介護予防
    - 2) 閉じこもり
    - 3) 生活支援
  - ④高齢者の住まい
3. 介護給付費と基盤整備の現状と今後・・・・・・・・資料3
4. その他

(資料)

1. 高齢者の現状と今後
  2. 個別テーマごとにみた現状と課題
    - 2-1. 在宅医療と介護の連携
    - 2-2. 認知症
    - 2-3. 介護予防と生活支援
    - 2-4. 高齢者の住まい
  3. 介護給付費と基盤整備の現状と今後
- 平成25年度富田林市びあ介護相談員派遣事業報告者

(資料 1)

富田林市高齢者保健福祉計画等 推進委員会(第2回)	資料 1
平成 26 年 8 月 28 日	

## 1. 高齢者の現状と今後

### ①人口の現状と推計

#### ・人口の現状

■住民基本台帳・・・平成25年の9月末の人口

#### ・人口の推計

■住民基本台帳の平成21から25年の各9月末の人口を「大阪府の第6期介護保険事業計画用ワークシート」を用いて平成26、27、28、32、37年(2025年)を推計

### ②要介護認定者の現状

■介護保険事業状況報告・・・平成21から25年の各9月末の要介護認定者数

### ③要介護認定者の将来推計

■介護保険事業状況報告・・・平成21から25年の各9月末、平成26年4月末の認定者数を「厚生労働省の介護保険事業計画用ワークシート」を用い、平成24から25年の実績の伸びで平成27、28、29、32、37年(2025年)の要介護認定者数を推計

## 第1回富田林市高齢者保健福祉計画等推進委員会の要点

### 1. 人口

①平成25年9月末時点の富田林市の総人口は117,126人、高齢者の人口(65歳以上)は29,051人。

総人口は年々減少していくのに対して、高齢者人口は年々増加していくと推計されます。平成37年度(2025年)には総人口100,164人、高齢者人口32,908人と推計されます。

年度	H25	H26	H27	H28	H29	H32	H37
総人口	117,126	115,946	114,724	113,461	112,166	107,969	100,164
高齢者人口	29,051	30,224	31,064	31,762	32,205	32,886	32,908

②高齢化率は年々増加。平成25年11月に高齢化率25%に達し、平成32年度には高齢化率30%を超えると推計されます。

年度	H25	H26	H27	H28	H29	H32	H37
高齢化率	24.8%	26.1%	27.1%	28.0%	28.7%	30.5%	32.9%

※高齢化率・・・65歳以上の高齢者人口が総人口に占める割合

③前期高齢者数(65歳以上75歳未満)は平成28年度をピークに減少、後期高齢者数(75歳以上)は年々増加。

平成32年度には後期高齢者が上回ると推計されます。平成37年度(2025年)には前期高齢者13,474人、後期高齢者19,434人と推計されます。

年度	H25	H26	H27	H28	H29	H32	H37
前期高齢者	16,001	16,731	16,988	17,015	16,760	16,156	13,474
後期高齢者	13,050	13,493	14,076	14,747	15,445	16,730	19,434

### 2. 要介護認定者数

①要介護認定者の現状・・・平成25年9月末時点の65歳以上人口は29,051人、うち、65歳以上(第1号被保険者)の要介護認定者は5,646人、要介護認定率は19.4%。

認定率を性別にみると、「男性」14.3%、「女性」24.1%と女性の認定率が高い。年齢階級別にみると、75歳を境に認定率が急上昇しています。

②要介護認定者の将来推計・・・要介護認定者数は年々増加。平成28年度に7,000人を超え、平成37年度(2025年)には9,500人を超えると推計されます。

年度	H25	H26	H27	H28	H29	H32	H37	
認定者数	5,813	5,959	6,475	7,032	7,603	8,641	9,641	
内訳	第1号被保険者	5,646	5,797	6,319	6,881	7,458	8,488	9,499
	第2号被保険者	167	162	156	151	145	153	142

(資料 2-1) 在宅医療

富田林市高齢者保健福祉計画等 推進委員会(第2回)	資料 2-1
平成 26 年 8 月 28 日	

## 2、個別テーマごとにみた現状と課題

### (1) 在宅医療と介護の連携

■在宅医療の実施状況調査 (I 実施体制調査 II 受給者調査)

対 象：富田林医師会所属の医療機関 (回答数：46 医療機関)

実 施 月：平成 25 年 12 月

■要介護者の訪問診療受給状況調査 (I 事業所調査 II 受給者調査)

対 象：市内及び近隣市町村の居宅介護支援事業所、小規模多機能型居宅介護、  
地域包括支援センター (回答数：65 事業所)

実 施 月：平成 25 年 12 月

■高齢者の住まいと生活支援のあり方に関するアンケート調査

対 象：65 歳以上の要介護認定のない人 (回答数：14,684 人)

実 施 月：平成 26 年 2 月

■高齢者の生活と住まいに関するアンケート調査

対 象：65 歳以上の在宅で要介護認定のある人

※約 4900 人から 1000 人抽出 (回答数：669 人)

実 施 月：平成 26 年 4 月

■富田林市ケアマネジャーアンケート調査

対 象：市内及び近隣市町村の居宅介護支援事業所、小規模多機能型居宅介護、  
地域包括支援センター (回答数：129 人)

実 施 月：平成 26 年 8 月